

まなび

VOL.
90

の 杜

東北大学総合情報誌

MANABI NO MORI

Theme

共創

[Theme]

共創

オープンでフラットな
共創の場として機能する
大学を目指して

東北大学は、開学以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念および「実学尊重」の精神を掲げ、世界最高水準の研究・教育を展開してきました。

2018年に本学は、「ビジョン2030」において、新たな社会価値創造に向け、「社会との共創」を標榜しました。そして今、「コネクテッドユニバーシティ戦略」において、多様な立場の人たちや組織とダイナミックにつながるエンゲージメント重視の方針を掲げ、対話と共創の強化を推進しています。

他者との関わりから新しい価値を生み出すとともに、自らの可能性を拡張していくためには、学内外のパートナーや多様な主体と、オープンでフラットな協力関係づくりが欠かせません。

本学では、昨年4月に共創戦略センターを、今年4月にグリーン未来創造機構を設置するなど、本学が社会とともに新たな価値を創造し、東日本大震災からの復興で培った経験や知見を活かし、ポストコロナ時代の豊かなグリーン社会創造への貢献や、持続可能なレジリエントな社会の実現に寄与することを目指しています。

本号では、「共創」を総合テーマに設定し、様々な共創のあり方や共創を生み出す実践例を取り上げました。

「社会とともにある大学」として、ユニバーサルやSDGsへの取り組みを先導する本学のリアルな姿をお届けしたいと思います。



4	特集 Special featured interview 佐々木 啓二理事・副学長に聞く—— グリーン社会の実現に向けた 東北大学の新たな挑戦 グリーン未来創造機構 (Green Goals Initiative) センシティブ グリーンゴールズ宣言の狙い
12	Past Innovation 先人たちの発想法 東北大学人物事典 ❸ 石田 名香雄
14	Alumni Network 同窓の広場 Interview File No.3 内ヶ崎 啓
16	Campus Environment まなびの環境 東北大学金属材料研究所 本多記念館 加藤 諭
18	Topics —Creating Global Excellence トピックス●その先の卓越へ。 「100円朝食」でコロナ禍の学生生活をまろくと応援ほか
20	私のMission Vision Value 総長・プロボスト室(事務) 諏訪 真奈美
21	Student Activities まなびの道 学生ビュースポーター承認団体 Pompadour 宮城アフリカ協会
22	Information まなびの杜から 東北大学校友会／東北大学基金／東北大学学友会



Tohoku University の頭文字「TU」をモチーフにし、地域に根差す形を図案化したタイトルロゴ。社会とともにある東北大学の広報媒体として、新しい価値創出の姿をお届けしてまいります。

[Photographer]
Masayoshi Harabuchi
(p.20(L))

Mayumi Itagaki
(pp.2-5, p.10, pp.14-17, p.20(R))

[Designer]
Yukihiro Enomoto



特集 *Special featured*

interview 佐々木啓一理事・副学長に聞く——
「インタビュー」

グリーン社会の実現に向けた 東北大学の新たな挑戦

グリーン未来創造機構(Green Goals Initiative)のミッションと
グリーンゴールズ宣言の狙いについて

特集
*Special
featured*
interview 【インタビュー】
佐々木 啓一理事・副学長に聞く

東北大学グリーン未来創造機構とは…

東北大学がこれまでに推進してきた東日本大震災からの復興および日本の新生に寄与するプロジェクトや、東北大学が掲げるSDGsである「社会にインパクトある研究」の30プロジェクトなどをさらに発展させ、新たに「Green Technology」「Recovery & Resilience」「Social Innovation & Inclusion」の3つの柱のもと大学の総合力をもって全学組織的に社会課題の解決へ挑み、グリーン未来社会の実現に貢献することを目的として、2021年4月に設置。これまでの活動により得られた経験、教訓や知見を活かしつつ、安心・安全で持続可能な未来社会に向けた教育・研究・社会連携活動などを推進することにより、地球温暖化をはじめとする環境および社会問題を解決し、自然災害や感染症などのあらゆる災害に対してレジリエントで、かつ人々が心豊かに暮らすことのできるグリーン未来社会の実現を目指している。



東北大学理事・副学長（共創戦略・復興新生担当）
東北大学グリーン未来創造機構長
共創戦略センター長

佐々木 啓一 SASAKI Keiichi

東北大学大学院歯学研究科歯学履修課程修了。歯学博士。2000年2月東北大学歯学部歯科補綴学第二講座教授。2010年4月東北大学大学院歯学研究科長・東北大学歯学部長。2020年4月東北大学副理事（共創戦略担当）・共創戦略センター長。同年10月東北大学副学長（共創戦略担当）。2021年4月東北大学理事・副学長（共創戦略・復興新生担当）・グリーン未来創造機構長。



東北大学青葉山新キャンパスにて

今年7月19日、東北大学は、世界の様々な社会問題や環境問題の解決に挑み、持続可能で心豊かなグリーン社会の実現を目指すことを「東北大学グリーンゴールズ」宣言として発表しました。今、大学をはじめとするアカデミアは、最先端研究の推進に加えて、その成果の社会実装により、現代社会における諸問題の解決に対し、いかに貢献できるかが問われています。

そこで、今年4月、本学理事（共創戦略・復興新生担当）に就任され、

グリーン未来創造機構長を務める佐々木 啓一理事に、

グリーンゴールズの狙いや内容についてご説明いただきました。

グリーン未来創造機構のミッションとこれからの構想についてお話を伺いました。

（取材：2021年8月26日）

新たなステージを拓く グリーン未来創造機構

東日本大震災から10年の節目を迎えた今年4月、「グリーン未来創造機構」が設置されました。災害復興新生研究機構を改組して発足した本学の復興・新生の目玉となる組織です。

東北大学では東日本大震災発災直後の4月、被災地にある総合大学としての役割を担うため、「災害復興新生研究機構」を設置しました。

全学的な震災復興への取り組みを通して、日本を牽引するような新たな価値創造をしていくという思いを「新生」という言葉に込めたのです。

そして、「8つのプロジェクト」や私たち教員の自発的な支援活動による「復興アクション100+」によって、「東北

大学復興アクション」（※1）を開始し、復興・新生に向けた研究の推進と社会実装に取り組んできました。

また、2015年7月には、本学の強みを活かした理念と30年先を見据えたグランドデザインを策定し、「社会にインパクトある研究」（※2）を始動しました。「持続可能で豊かな社会の創造」を目指し、解決すべき社会課題に対して、本学が他の研究機関、産業界、政府・自治体などとの連携のもと、組織的・長期的に研究を推進するというものです。

奇しくも本学がこの活動を開始した2カ月後に、国連で「持続可能な開発目標（SDGs）」が、同年12月にはCOP21パリ協定がそれぞれ採択されています。（図1）

「社会にインパクトある研究」で立ち上げた多様なプロジェクトを見ると、今世の中で主要課題として挙がっている

テーマがほぼ盛り込まれていますから、「社会にインパクトある研究」は、国連のSDGsに先んじて発した東北大学版SDGsともいえるものです。

このような活動を踏まえ、これまでの本学の復興・新生の取り組みを「持続可能でレジリエントなグリーン未来社会の実現」という新たな概念のステージへと発展的に継承・展開することを目指し、グリーン未来創造機構が設置されました。

3つの重点分野と グリーンゴールズ宣言

グリーン未来創造機構では、世界の脱炭素化の加速、一昨年から新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、先に述べた「復興アクション」と「社会にイ

※1 東北大学復興アクション…東日本大震災の被災地域の課題を踏まえ、地域の特色や資源を活用した研究・人材育成・新産業創出などを継続的に推進し、それらの活動を国内外に発信する取り組みのこと。災害復興新生機構によるこれら一連の取り組みは冊子『東北大学復興アクション』として1版（2012年5月）～9版（2021年3月）に詳しくまとめられている。

※2 社会にインパクトある研究…2015年7月、東北大学が現代社会の抱える諸問題を解決し、人類が融和的に共存できる心豊かな未来を創造するために発足した研究体制。本学が解決すべき領域として左記の7つのテーマを掲げ、全学から部局の壁を超えて研究者を結集。30のプロジェクトを立ち上げ、30年後までのグランドデザインを策定した。本学を中心に国内外の研究機関や産業界、政府自治体、金融機関などと連携しながら、成果の普及と社会貢献を推進している。

特集
Special
featured
interview （インタビュー）
佐々木 啓一理事・副学長に聞く

- A 持続可能環境の実現
- B 健康長寿社会の実現
- C 安全安心の実現
- D 世界から敬愛される国づくり
- E しなやかで心豊かな未来の創造
- F 生命と宇宙が拓く交感する未来へ
- G 社会の枢要に資する大学

ンパクトある研究」の推進、そして「コロナ禍からの復興」と「グリーン未来社会の創造」への挑戦を一体的に進めることとしました。

グリーン未来創造機構のミッションは、「安心・安全で持続可能な社会に向けた教育・研究・社会連携活動を推進すること」「環境および社会問題を解決し、持続可能で自然災害および感染症などのあらゆる災害にレジリエントなグリーン未来社会の実現に寄与すること」にあります。

世界は今、地球温暖化をはじめとする環境問題や社会問題、激甚化し頻発化する気象災害や新型コロナウイルス感染症拡大といった新たな災害など、複雑多様化した課題に直面しています。

本学は、東日本大震災以降、様々な研究成果を短期間で社会実装する過程で、多くの経験、教訓、知見を培ってきました。また、多様なステークホルダーとの連携を通して「社会とともにある大学」という独自のアイデンティティを育んできました。

グリーン未来創造機構では、こうした本学の独自性を強みとして活かすため、学内や大学と社会の包括的な連携を図る「インターフェース」として、また学内の多様な取り組みが外に見える「ショーケース」として、さらには知見やデータを駆使した「シンクタンク」として、機能していくことを目指しています。

私たちは、本機構が推進する3重点分野として、カーボンニュートラルなどに関わる「Green Technology」、防災、感染症対策などに関わる「Recovery & Resilience」、デジタル社会やダイバーシティなどに関わる「Social Innovation & Inclusion」という3つの分野を設定しました。

そして、本機構が、各分野に関連する研究、人材育成、社会実装を推進する役割を果たしていくことを内外にアピールするため、次に掲げるような具体的な「目標」を設定し、今年7月19日、「東北大学グリーンゴールズ」宣言として発表しました。

教育

全学教育、学部・大学院教育をとおり「グリーン社会の実現」とSDGsの達成に資する人材育成を進めます。

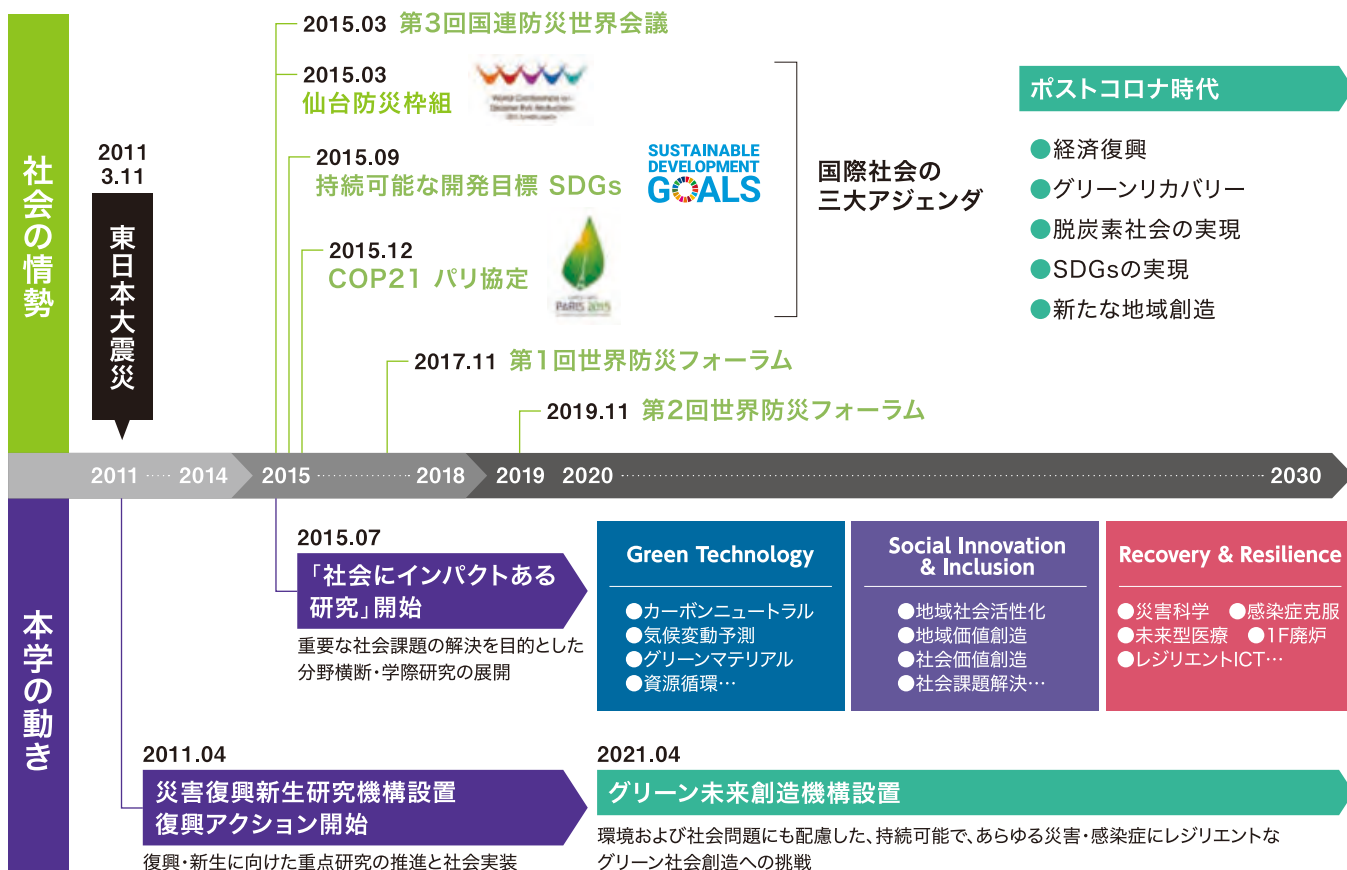
研究

グリーン・テクノロジーをはじめとする3重点領域の研究開発を国内外の研究機関・企業等とともに推進し「グリーン社会の実現」に寄与します。

社会との共創

産学官連携、社会共創を進め、キャ

図1 【東日本大震災の復興からポストコロナ時代のグリーン未来創造に向けた工程表】



ンパスが立地する仙台市をはじめとした「ゼロカーボンシティ」の実現、持続可能でレジリエントな社会の実現に寄与します。

大学キャンパスのゼロカーボン化

DXによる業務効率化等を通じ、2030年度までに大学キャンパスの温室効果ガス排出量を、2013年度からマインナス50%、2040年度までに実質ゼロを目指します。

ちなみに「大学キャンパスのゼロカーボン化」の2030年度の50%削減目標については、様々なシミュレーションの結果、DXの推進、電気ヒートポンプやLED照明の導入によって、ほぼ達成できる見通しとなっています。

スタート時点で600件の取り組み例

2020年10月、SDGs、パリ協定などの目標をクリアするため、わが国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、政府は2兆円規模のグリーンイノベーション基金を立ち上げました。今後このような動きは加速するものと思われま

ります。グリーン未来創造機構は、本学が取

り組んでいる多様なプロジェクトを推進するため、支援機能を発揮していく必要があります。

先ほど述べた3つの重点分野における本学の主な取り組み例を示したものが図2です。

機構始動に当たり全学で調査を実施したところ、今年4月のスタート時点で600件もの取り組み例が挙がっています。

その内訳について見ると、本学の強みでもある技術や材料といった「Green Technology」の分野で270件、「Recovery & Resilience」の分野で230件、「Social Innovation & Inclusion」の分野で100件の取り組みとなっています。

本機構では、これらの取り組みをグリーン社会の実現という切り口でカテゴリー化するなど、それぞれの分野ごとにわかりやすく整理し、ショーケース化することを考えています。

企業からの参画をより一層促す施策が必要

国際競争が激化する中、わが国が発展を続けていくためには、企業と大学などが連携し、イノベーションを創出していくことが重要です。

2025年度までに、企業から大学な

図2 【グリーン未来創造機構の3つの重点分野と主な取り組み例】





東北大学青葉山新キャンパス青葉山コモンズにて

どへの投資を2014年度の3倍にすることが政府目標とされています。

しかしながら、例えば企業との共同研究において、大学の硬直的な雇用形態や資金運用などが要因となり、企業が求めるスピード感と合わないなど、連携の障壁となっていたことは否めない事実だと思います。

これからは、外部化法人(※3)の設立などによって、企業からの参画をより一層促す施策が必要だと考えています。効果的に研究開発を進め、研究成果の社会実装を促進するためには、既存の制約や規制などから離れる環境づくりも重要です。

本機構としては、先に述べたインターフェース機能を発揮し、多様なステークホルダーに「パートナー」や「アフィリエイト」として参加・共創していただけるよう、学内外を接続する役割を果たしていきたいと考えています。

また、「グリーンゴールズ宣言」に興味をお持ちの企業は、ぜひ私たちのところにお集まりいただき、今後どのような形のグリーン社会を目指していくか、その方向性や進め方を皆様とディスカッションし、社会に示唆を与えていくようなシンクタンク機能も発揮していきたいと思っております。

運営費交付金が減る中、本学が真に「世界と伍する研究大学」となるためには、自律的経営基盤を築くことが必要

です。そのためには、研究力で自己収入を拡大する仕組みへのトランスフォーメーションが求められています。

そのコアとなるのが「グリーンゴールズ」の3つの重点分野における600件に及ぶ取り組みであり、後ほど述べる「サイエンスパーク構想」(※4)や「スーパースイティ構想」(※5)への取り組みです。これらは、グリーン社会の実現を目指す点において一体であり、相互に連動した密接不可分な事業であると位置づけております。

※3 外部化法人：国立大学や国立研究開発法人が、共同研究など産学連携を手がけるために設立する子会社のこと。今年度からスタートした国の新制度。オープンイノベーションの活性化、資金の獲得などに有効。

※4 サイエンスパーク構想：東北大学青葉山新キャンパスに産学官が結集し、大学と共に社会価値創造を行う共創の場を整備する構想。次世代放射光施設はこの構想の中核と位置付けられており、資金と人材が循環する自律的経営基盤の構築を目指している。

※5 スーパースイティ構想：大胆な規制緩和を行うとともに、複数分野のデータ連携と先端的サービスの提供により未来の生活を先行して実現する「まると未来都市」を目指す構想。2020年国家戦略特別区域法が改正され「スーパースイティ型国家戦略特区」が創設された。今年4月に提案した「仙台市東北大学スーパースイティ構想」は、市民×大学×ビジネス(CUB)の協働により未来都市ショーケースの実現を企図している。



東北大学サイエンスパーク構想

共創の場としてのサイエンスパーク

東北大学青葉山新キャンパスには、国際集積エレクトロニクス研究開発センターやマテリアル・イノベーション・センターなど、民間寄附による研究センターが複数あることから、本学の産学連携機能の中核を担っています。

こうした本学の強みと潜在力をベースに、産学官が集う社会課題解決型キャンパスに「共創の場」を築こうというのが、本学が進めている「サイエンスパーク型研究開発拠点整備」です。

現在、新たに東京ドーム17個分に相当する総面積81万平方メートルのスペースに大規模なキャンパス整備を行っているところです。

2023年ファーストビーム予定の次世代放射光施設などを活用した「サイエンスパーク構想」においては、データ駆動型のイノベーション・エコシステムの構築に向け、国内外のものづくり企業、デベロッパー、情報サービス企業、金融機関、行政、研究機関など様々なプレーヤーが集まり始めています。

しかし、これまでのような特定エリアに箱のような建物が並んでいて、「その中だけで何かを研究している」といったイメージではなく、それぞれ拠点となる施設はあるが、バーチャルな関わりを含

め、キャンパス全体が社会との共創の場になっていく——私たちは「サイエンスパーク」についてこのような姿を思い描いています。

本機構では、その中でR&Dやベンチャー起業支援、大企業や地元企業との共同研究をインキュベートする仕組みを考えています。

特に次世代放射光施設は、多様な分野、多様な主体が利用し生み出される膨大なデータの活用で、社会課題の解決に役立つ多くの成果が得られるものと期待されています。

スーパースィティ構想で未来都市づくりを共創

今年4月、仙台市は東北大学と協働で、スーパースィティ構想を取りまとめ、「スーパースィティ型国家戦略特区」に応募・提案しました。

本学が社会実装の地域への展開を見据えて、本学キャンパスの区域を「未来都市シヨークース」として設定し、多様な人材が自由な発想で社会変革に挑戦する場を創ることが目的です。

そして各種事業の規制緩和などにより企業誘致やプロジェクト運営を行う構想を立てています。

図3のとおり、私たちが打ち出した5つの領域の中で、一番特徴的なのが「人

図3 【「仙台市×東北大学 スーパーシティ構想」5領域】



ました。こうしたグリーンな未来都市づくりを共創することへの関心の高さが裏付けられた思いがします。

「スーパーシティ」を、研究成果を社会実装するためのテストフィールドとして見た場合、「社会の持続的な変革を駆動する」という点においては、「サイエンスパーク」とも連動しており、一体的なものとして捉えることができます。

仙台市は政令指定都市でありながら、ルーラル（田園）からアーバン（都市）までそろっている点も大きな魅力であり、こうしたテストフィールドとしての活用を可能とするキャンパス環境を備えている点も東北大学の強みの一つであるといえます。

育成は、SDGsをテーマにした情報発信力の強化にもつながります。

また、包括的な「グリーン」あるいは「グリーン社会」といった切り口は、東北大学の多様な取り組みを世の中に知っていただくための糸口としても、社会への訴求力においても、非常に大切な要素です。グリーン未来創造機構では、グリーン社会の実現に向け、東北大学の中で行われている様々な研究や社会的な活動、ならびにプロジェクトなどの取り組みに関し、学内外に向けて、発信力の強化に努めていきたいと思っています。

東北大学基金の拡充も私の所掌事項の一つですが、東北大学基金においても、「グリーン」をキーワードに、どのように大学の取り組みや魅力をアピールすることができかが大きなカギとなります。

未来へ向けて 新たな一歩

震災を経験した東北大学は次の10年、あるいは50年先を見据え、グリーン未来創造機構の設置により、未来へ向けて新たな一歩を踏み出しました。

グリーン未来創造機構は、グリーンイノベーションの推進を目指し、学内外の多様なステークホルダーをつなぎ、融合していく役割を果たしていきたいと思っています。

グリーン社会の実現に貢献する人材の育成、研究開発、社会共創を進め、ポストコロナ時代の心豊かなグリーン社会の創造に貢献していきたいと考えています。

（談）

と社会のつながり」という領域です。グリーン未来創造機構の3つの重点分野の1つ「Social Innovation & Inclusion」がこれに相当します。

学生や留学生、知識集約型社会を担う専門家やイノベーション人材、さらには大学の各種アセットを利用する市民や社会起業家などが、共通IDとデータ連携基盤の上で、「仮想市民」としてつながるプラットフォームを提供していくという提案です。

事前にネット上で本学構成員に意見聴取したところ、学生や若い教員を中心に1500件ほどのコメントが寄せられ

人材育成と 発信力の強化

本学では、グリーン社会の実現に貢献する人材を育成するため、2022年4月から全学教育科目の中に学部3・4年次を対象とした高年次教養教育として「SDGs5科目」を新設することといたしました。5科目の科目名は図4に掲げたとおりです。

さらに今年10月から全学部生を対象とした入門科目を先行実施することが決まっています。こうした持続可能な社会を担う人材

図4 【持続可能な社会を担う人材育成「SDGs新設5科目」】

持続可能性と社会共創
持続可能な社会・経済・環境システムの構築に向けて、利害関係者が如何に連携・共創していくべきかについて、具体例を挙げてSDGsの理解を深める
SDGsにみるグローバルガバナンスと持続可能な開発
地球規模の対応が求められている諸課題について、SDGsとの対応を踏まえながら、社会科学の視点から問題を解説し、その解決策を検討する
SDGs達成の現状と課題
SDGsの17目標を地球規模課題と位置づけ、現在の課題・どのような対策がとられているか・将来に必要な支援・協力・解決策について解説・討論する
持続可能な発展と社会
持続可能な社会実現に向けて、技術的な解決と社会の仕組み改善をどのように包括的に進めていくべきか、具体例を挙げつつ多様な側面から議論をし、持続可能性科学についての理解を深める
持続可能な社会実現に向けたシステム設計
持続可能な社会実現に向けて、技術的な解決と社会の仕組み改善をどのように包括的に進めていくべきか、関与すべきステークホルダーの抽出、制度設計、乗り越えるべき課題とその解決策について理解を深める

先人たちの 発想法

東北大学人物事典 ③
【石田 名香雄】

世界中にインパクト与えた センダイウイルスの発見

「最先端医学を牽引し続け、語り継がれる偉業」

文：石井 直人・東北大学大学院医学系研究科・免疫学分野教授



(写真提供：東北大学史料館)

第15代東北大学総長
東北大学名誉教授

石田 名香雄 ISHIDA Nakao

1923年新潟県上越市生まれ。仙台市に移り住み旧制仙台一中、旧制二高、1946年に東北帝国大学医学部を卒業。1960年に東北大学医学部細菌学教室教授に昇任。医学部長を歴任し、1983年に第15代東北大学総長に就任、1989年に同総長を退職し名誉教授。センダイウイルスの発見により日本学士院賞。勲一等瑞宝章。仙台市名誉市民。2009年逝去。

石田名香雄先生の名は、センダイウイルスの発見（1953年）者としてウイルス学・免疫学の分野では現在に至ってもなお知らない人はいないほどで、東北大学が世界に誇る業績の1つです。最近、米国に留学した某君は、留学先の研究室のボスから、「センダイウイルスの仙台から来た○○」と周囲に紹介されたそうです。発見から60年以上を経た今でも、センダイウイルス発見の偉業は燦然と輝いています。それ以外にも石田先生の業績は、抗腫瘍抗生物質ネオカルチノスタチンの発見、B型肝炎ウイルスの研究、インターフェロン誘起に関する研究など、枚挙にいとまがありません。また、数多くの優秀な弟子達を育てあげられ、

教室出身の教授や研究所長の数は百人近くにものびります。人材育成もまた、石田先生の大きな業績です。その一方で、東北大学総長在職中（1983年～1989年）には、『明るい東北大学づくり』をスローガンに掲げ、学部間の横の風通しを良くする文理融合に取り組まれたほか、東北から産学連携による共創を起こす「東北インテリジェント・コスモス構想」の立ち上げにも尽力されました。本稿では、石田先生のセンダイウイルスの発見とその発見が医学研究の発展に与えたインパクトについて紹介いたします。

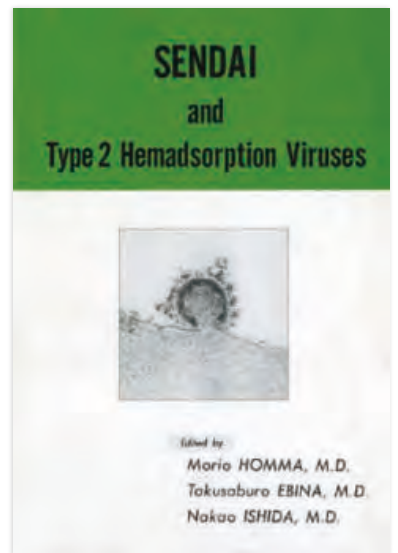
センダイウイルスの発見

センダイウイルスは1953年に本学医学部細菌学教室助教授だった石田名香雄先生によって発見されました。この発見の端緒は、1952年に本学大学病院新生児室で原因不明の新生児肺炎が流行し、わずか2ヶ月の間に11人が亡くなるという出来事でした。当時、この

新生児肺炎にペニシリンが無効であったため、石田先生はウイルスが原因であると考えました。そこでまず、亡くなった患者さんの肺組織から得た抽出物をマウスの鼻腔に接種し、同一の感染症がマウスに起こるかを試しました。その結果、予想通り、接種されたマウスの全てが肺炎で死亡しました。しかも、死亡したマウスの肺で増えた病原体を解析したと

ころ、その病原体が新種のウイルスであることが確認できたのです。仙台での新種ウイルスの発見は世界中から注目され、日本国内では別の名称が付けられたにもかかわらず、いつの間にか Sendai virus センダイウイルスと呼ばれるようになりました。

は、電子顕微鏡の発明を待たなくてはなりません。電子顕微鏡が未だ普及していなかった1950年代前半にウイルスを発見するというのは極めて困難なことでした。実際に、良く知られた感染症である麻疹や水痘の原因ウイルスが発見されたのは1954年ですから、それらに先立つ1年前に日本で新種のウイルスが発見されたことはまさに偉



1984年に仙台市で開催された第6回国際ウイルス学会で配布された冊子。その表紙にセンダイウイルスの電子顕微鏡写真が掲載されている。

ルスでも同様であることがわかつています。しかし当時としては画期的な発見であり、ウイルス学のほとんどの教科書にウイルス感染モデルの代表として記載されました。

業であり、日本の医学界に計り知れないインパクトを与えました。

センダイウイルス研究の医学への貢献

その後石田教室の本間守男助教授（神戸大学名誉教授）のグループにより、センダイウイルスが細胞から細胞へと感染するためにはウイルス表面の1つのタンパク質が細胞側の酵素によって2つに開裂されねばならないことが発見されました。すなわち、ウイルスは細胞側の機構を利用することによって感染を成功させることが分子レベルで証明されたのです。また、国内の他のグループからは、センダイウイルスには細胞と細胞とを融合させる性質があること、この細胞融合活性が隣接細胞へとウイルスが感染する上で必要であることが証明されました。これらのウイルス感染メカニズムは、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルス

た。センダイウイルスの研究成果がウイルス学を志す者にとって最初に学ぶべき感染モデルとして広く知られるようになったのです。センダイウイルスの研究がウイルス学の発展にとっていかに大きく寄与したかがわかります。

一方、センダイウイルスの細胞と細胞とを融合させる性質を利用することで別々の2つの細胞を人為的に融合させ1つの細胞に変化させることができます。この性質を利用して人工的な抗体を作成する技術が開発されました。具体的には、抗体を産生するリンパ球と多発性骨髄腫細胞（がん細胞の一種）にセンダイウイルスを感染させ両細胞を融合させることで、特定の抗体のみを産生する細胞を永久的に増殖させることが可能になりました。つまり、欲しい抗体を無限に作り出すことができるようになったのです。この技術によって生み出されたモノクローナル抗体は医学研究を進展させただけでなく、分子標的療法のた

めの薬剤として最新医療に応用されています。センダイウイルスを用いてモノクローナル抗体の開発に成功したミルシタイン博士とケーラー博士は1984年にノーベル賞を受賞しました。現在、センダイウイルスは遺伝子導入効率が高いウイルスベクターとして遺伝子工学やワクチン開発に応用されており、いまだ最先端医学を牽引しています。センダイウイルスはウイルス学だけでなく医学・医療の発展にも大きく貢献しているのです。

センダイウイルスと仙台市

このように、センダイウイルスの発見が科学史に残る大発見となり、世界的名声を博することとなった石田先生は、総長在任中の1984年に、欧州以外での開催としては初の国際ウイルス学会を仙台市で主催しました（写真）。開催地を決める会議で先生は「仙台は夜中に女性が一人で歩いても安全である」と発言され、「石田が言うなら本当だろう」と満場一致で仙台市が選ばれたといえます。このエピソードから石田先生が世界中のウイルス学者から信頼、尊敬されていたことがうかがわれる逸話です。その、国際ウイルス学会は2千人以上の外国人が訪れた仙台市最初の大規模な国際学会であったために、仙台市内の案内看板に英語が併記されるきっかけになったそうです。このように石田先生はウイルス

研究を通して仙台市の発展にも貢献したことにより仙台市名誉市民の称号を贈られその栄誉を讃えられました。

最後に

現在では、センダイウイルスはマウスなどの細菌類に感染するウイルスで、研究用として使用されているセンダイウイルスが人に病気を起こすことはありません。そのため、センダイウイルスが新生児肺炎の真の原因だったかを疑う研究者もいます。しかし、現在はありませんが当時は日本の豚のほぼ半数がセンダイウイルスに感染していたことが知られており、当時の劣悪な衛生環境を考えると、免疫が弱い新生児に肺炎を起こした可能性を否定することはできません。センダイウイルスと新生児肺炎との関係は不明のままとなっていますが、いずれにせよ、石田先生が発見したセンダイウイルスがウイルス学・医学の発展に大きく貢献したことは間違いありません。東北大学にとって世界に誇るべき業績の一つとして語り継がれることでしょう。



若き日の石田先生

酒造り360年の系譜を継ぎ 蔵元杜氏として醸す 芳醇無比の伊達な酒。

一子相伝にとらわれず情報を共有し、新しい価値を創る

宮城県内で最も古い酒蔵、内ヶ崎酒造店の16代目に就任した本学同窓生の内ヶ崎啓さんは33歳。酒造業界でも若き蔵元杜氏の一人です。代表銘柄の「鳳陽」は、少量生産の高品質な酒として評価され、新型コロナウイルスの打撃を受けながらも2020年には国内外の鑑評会において数々の賞を受賞しています。蔵元杜氏として、時代とともに、人とともにある、酒造りへの思いを伺いました。

合資会社内ヶ崎酒造店 社長

内ヶ崎 啓 UCHIGASAKI Kei

1988年生まれ。仙台市出身、富谷市在住。2011年3月東北大学農学部卒業。東日本大震災により卒業式がないまま、手仕事を大切にしている山形の出羽桜酒造株式会社にて2年間研修。内ヶ崎酒造店に戻り、静岡の銘酒「磯自慢」の杜氏を長く務めた前杜氏の瀬川博忠さんと酒造りを5年間行う。アメリカで日本酒が注目を集める1990年代後半のブームに先駆け、先代の父が海外輸出に積極的に取り組んでいたことから海外との取引も多い。2011年イギリス王室御用達の歴史ある高級ワイン店「ベリー・ブラザーズ&ラッド(BB&R)」が初めて取り扱う日本酒の一つとして「特別純米酒 鳳陽源氏」が選ばれる。啓さんが杜氏を務める2018年以降も、フランスで開催された日本酒品評会「Kura Master2020」純米大吟醸酒部門で「純米大吟醸 鳳陽」金賞、「令和2酒造年度 全国新酒鑑評会」で「大吟醸 鳳陽」金賞など受賞多数。祖父、父、啓さんの三代が東北大学卒という縁から東北大学オリジナル日本酒「萩のゆかり」を仕込む。コロナ禍の中、アメリカの日本酒愛飲家を対象とするオンライン見学会を開催。啓さんがカメラを手に酒蔵に入り、酒造りの工程を英語で説明し、参加者100人余りから反響を得る。創業360周年となる2021年7月、内ヶ崎酒造店社長に就任。

同窓の広場

インタビュー③

Alumni Network

Interview File
No.3



焦る気持ちに杜氏の一喝

2011年3月東北大学農学部を卒業後、山形の酒蔵で研修をしました。研修先の酒蔵では、経営面や杜長の付き合いを学ぶのかと思っていたら力仕事、酒造りが中心でした。2年しかない研修で、早くいろいろなことを覚えたい一心で、うちろろしていたときです。

「酒造りをやるつもりがあるのか」と研修先の杜氏から叱られました。一つのこととできないのに、と。それから麹造りに専念しました。見て覚え、やって覚えるしかありません。日記をつけて工程の順序や法則性を覚えていきました。微生物を扱う緊張感と、時間をいとわず様子を見に行く責任感、何が何でもやり抜く姿勢を学びました。

一見逆行であつても進歩

震災で被害を受けた酒蔵では設備投資が盛んに行われましたが、内ヶ崎酒造店では大規模改造の方針は採らず、今ある設備をどう活かすかを考えました。

復興景気によって人材が確保できず2人で酒造りをしなければならなくなり、従来の方法では物理的にこなせない状況も重なりました。それまで純米大吟醸だけをフネと呼ばれる槽で搾って原酒を取り出していたのですが、全てフネで搾ることにしました。多くの酒蔵で使用



多くの賞状が掲げられた会議室

されているアコーディオン式のもろみ圧搾機に比べて原始的で単純な造りなので、熱湯消毒ができ格段に作業が軽減されました。逆行しているようで進歩した、小さい蔵に適したやり方です。

科学的な思考と五感と

前杜氏が引退したことで2018年から杜氏になり、仕事は2・5倍増えました。大変でしたが酒造り全体が分かってきました。昔からの酒造りの方法へのみにせず、科学的な思考で考えるようにしています。いろいろな人の話を聞いて、酒蔵を訪問して、講習会にも出て、自分の蔵の良い点、悪い点が見えたことで方向性が定まってきました。自分が杜氏になつてからは、大吟醸造りの酒質を普通酒でも目指しています。

自分は全然ストイックではないですが、基本ストイックじゃないと酒造りはできないとも感じています。大学の研究室と違って分析機器はありませんから、自分の五感をデータ化していきます。香りの

成分は250種あるといわれ、その標準項目を鼻で覚え、五味の濃淡を舌で覚えます。利き酒は午前中、朝食を抜いて行い、この仕込みでこの結果になるという道筋を覚えるのです。

大学で学んだ動物微生物学の研究と酒造りに直接的な関係はありませんが、実験の時に清潔性を保つ経験や命を大切に考える方は生きています。研究室と現場では規模も設備も違います。研究室でうまくいくと思っても実際には無理な場合があるというシャレの中の現実を知っていますから。数字だけ見ても、おいしくはなりません。だからマスクが苦手なのです。香りや味を見ることが酒造りには欠かせませんから。

酒造りは共創あつてこそ

南部杜氏が少なくなったとき、昔のように一子相伝では成り立たないとみんな分かつてきて、情報を公開するようになりました。研修先でも、ほかの蔵元も聞けば9割は教えてもらえます。自分も聞かれたら教えています。

コロナ禍で特に感じたのは、酒造りは飲み手、料飲店、酒販店、酒米農家、研究者の方、いろいろな人たちの共創がないと成り立たないということです。東北大学オリジナル日本酒「萩のゆかり」も、新酒米「吟のいろは」を使って、山田錦の味に勝る大吟醸をとのご要望に奮

い立たされて、バチバチの鑑評会用のお酒を造りました。いろいろな方が関わってこそ、おもしろいものが提供できます。アメリカの日本酒愛飲家へのオンライン見学会も、古い蔵なので電波が届かずフリーズしたり、英語の坎ペを作ったりしましたが、「想像を超えていた」と喜んでもらえました。海外の多くの人に日本酒のおいしさを知ってもらいたいという強い思いがあります。

それより、もっといえば、日本国内の人に知ってほしいのです。若い人たちが決しておいしさが分からないわけではありません。大学のころ、純米大吟醸と本醸造の安いのを研究室へ持っていったら、大学生は正直なので、おいしいと認識して純米大吟醸にいきます。うちの酒蔵の樽には「芳醇無比」と書かれていて、その概念を残し、おいしい日本酒を飲んでもらえる場ができればと思っています。

最終的にはコンテストに勝つのが目的ではなく、目指しているのは、おいしいお酒を造ることです。(談)



宮城県内最古の酒蔵、内ヶ崎酒造店

共創を象徴する 片平キャンパスの 近代建築

歴史学者、
東北大学学術資源研究公開センター 史料館准教授
加藤 諭 KATO Satoshi

1978年生まれ、東北大学文学部卒業、同大学院博士課程単位取得退学。東京大学文書館特任助教を経て、現職。国の公文書管理法が定める大学アーカイブズにおいて、複数館での教務経験を有する研究者として、大学・企業・社会の記録管理と歴史学を組み合わせた研究を進めている。主な著書に『古い人文学・ケアの現場・老年学』（編著、ポラノ出版）、『戦前期日本における百貨店』（清文堂）、『大学アーカイブズの成立と展開―公文書管理と国立大学』（吉川弘文館）、『帝国大学における研究者の知的基盤―東北帝国大学を中心として』（編著、こぶし書房）など。

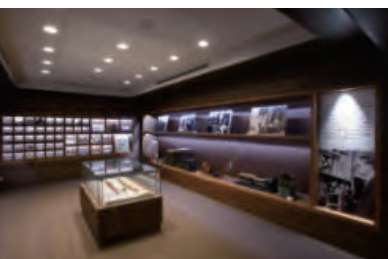
東北大学では2017年に5つの歴史的建造物、2019年には建造物に関する建築図面資料が登録有形文化財に登録され、2021年7月にはさらに8つの歴史的建造物が、文化審議会による文部科学大臣への答申を経て、同年10月登録有形文化財に追加登録されました。今回答申されたこの8件のなかに、今年で落成からちょうど80周年を迎える本多記念館が含まれています。

本多記念館の建設は、金属材料研究所の初代所長であり、東北帝国大学第6代総長を務めた本多光太郎の東北帝国大学在職満25周年を記念して計画されたものです。このとき工業界を中心に集められた約50万円の寄附金は、日本金属学会設立の原資や、既存施設や実験室の整備にも使われていきます。本多記念館の建設はそうした産学の共創を象徴する事業でもあったのです。1937年2月の評議会において、建設計画が報告されたものの、日中戦争の影響による鉄鋼使用制限から工事開始は遅れ、本多記念館の建設は2年後の1939年になって始まります。ようやく落成したのはさらに2年後の1941年10月のこ

とでした。

鉄鋼使用制限から鉄筋の手配に時間を要したとはいえ、地下1階、地上3階建ての鉄筋コンクリート造りで、全面タイル貼りによる縦方向を強調した列柱型外観は見応えがあり、玄関部分の車寄せと大きな庇を抜けて玄関ホールに入ると、続く吹き抜けの階段周りは大理石仕上げとなっており、戦時期に完成した建物としては、建築意匠的にも価値がある建築となっています。

また本多は、金研敷地に組み込まれていた旧乃木希典邸宅の松を気に入り、本多記念館完成に際し玄関そばに移植、この通称、乃木將軍遺愛の松は本多謹書の碑とともに、現在も本多記念館の景観を彩っています。本多記念館内にはその後、金研創立50周年時に本多記念室、資料展示室が設置され、2016年の創立百周年に合わせてリニューアルされることになります。本多記念館は内部の設備、展示も含め、後世に引き継ぐべき市民共有の文化的資産として、また東北大学の共創を象徴する建物として、これからも保存活用されていくことでしょう。



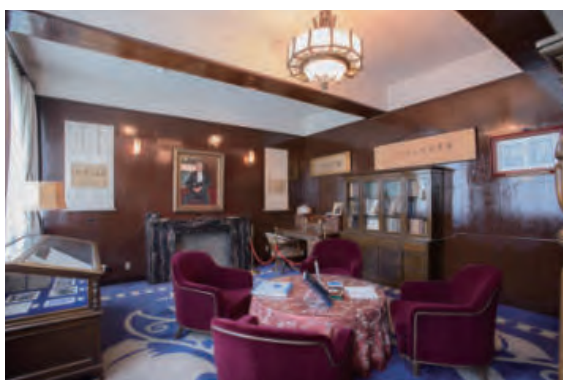
資料展示室

今日まで金属材料研究所が研究開発し、その指導により企業化されたKS 永久磁石鋼をはじめとする各種の新素材やその製品などを常時展示し、本研究所の歴史や研究成果を広く紹介しています。

本多記念館の階段周辺

1994年に壁面の補強や内装などの改修整備工事が行われましたが、玄関ホールや階段周辺の大理石を保存するなどの配慮がなされ、往時の面影を今に伝えています。





本多記念室

室内には本多博士が生前に使用された各種の実験器具や実験ノートなど博士をしのぶ遺品の数々が展示されています。

本多記念館

仙台市青葉区片平にある旧東北帝国大学金属材料研究所本多記念館は、同大学第6代総長も務めた物理学者の本多光太郎博士の在職25年を記念して1941年に落成した研究棟です。現在も東北大学金属材料研究所本多記念館として公開されています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、見学の休止や入館人数制限をしている場合がありますので、ご見学に関する最新情報は下記ウェブサイトでご確認ください。

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

●TEL 022-215-2144

●FAX 022-215-2482

●開館日 月曜日～金曜日

●開館時間 9:00～16:30

●休館日 土曜日・日曜日および祝日、夏期休業日、年末年始

●公式ウェブサイト <http://www.imr.tohoku.ac.jp/ja/public/memorial-hall/>



東北大学における「教育」「研究」「社会との共創」の好循環構築に向けた動きをお届けします。

学生の心と体に栄養を届け、健やかに

「100円朝食」でコロナ禍の学生生活を まるっと応援

校友ネットワークと在学生をつなぐ、新たな支援のカタチを推進

新型コロナウイルス感染拡大の影響に起因する、学生生活や修学環境の変化により経済的に困窮した学生に対し、あらゆる支援をパッケージ化して多面的な支援を行う「令和3年度東北大学学生支援パッケージ」の取り組みの一つとして、学生の食習慣を整えて健康を維持し元気に修学に励んでいただきたいとの思いから「100円朝食」を提供することといたしました。

2021年5月10日から実施した第一弾では、連日450食が完売するほどの盛況となり大きな話題を呼びました。その様子を知った本学卒業生から同窓会を通じて群馬県産三元豚の提供があり、6月には第二弾「学生応援100円朝食～豚肉ウイーク～」を実施することができ、先輩方からの温かいメッセージとボリューム満点の献立に、学生から「最高」「今日一日頑張ろう」など多くの喜びと感謝の声が届きました。

続いて7月には「100円朝食」の趣旨にご賛同いただいた一般財団法人田中貴金属記念財団様からのご寄附により第三弾を実施し、主菜を選べる日替わり朝食を通して学生たちに笑顔を届けることができました。

「100円朝食」は、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、経済的にも心理的にも大きな不安や困難を抱えて毎日を過ごす学生を“応援したい”という東北大学全学同窓会・萩友会をはじめとした校友の皆様の温かいご支援の声と、「100円朝食」の趣旨にご賛同いただき、東北大学基金に寄せられたご寄附を活用し実施しており、校友ネットワークと在学生をつなぐ新たなご支援の輪が広がり続けています。今後も第四弾以降の企画が進んでおり、「食」を通じた学生支援を随時展開していく予定です。



100円朝食の様子



提供された100円朝食メニュー

10万人の全ゲノム解析を目指し 統合解析コンソーシアム設立

2021年3月、東北大学東北メディカル・メガバンク機構（ToMMo）は、エーザイ、小野薬品工業、武田薬品工業、第一三共およびヤンセンファーマの製薬企業5社参画による「全ゲノム情報と医療・健康情報の統合解析コンソーシアム」をスタートさせました（設置期間は2026年3月末まで）。

現在、世界中で全ゲノム解析データの数十万～百万規模への大規模化に向けた取り組みが続けられていますが、我が国では総計で数万程度までにとどまっています。こうした中、製薬企業を中心に日本人を対象としたゲノム研究の基盤の拡充を求める声が高まっていました。

本コンソーシアムでは、既解析分等とあわせ総計10万人分の全ゲノム解析データを構築することを目指すとともに、全ゲノム情報と東北メディカル・メガバンク計画によって蓄積されている各種情報と併せて、統合的な解析を行い革新的な医薬品開発を推進します。

今後、本コンソーシアムの活動は、医薬品開発を中心に、我が国の幅広いゲノム研究を推し進め、個別化・精密化医療の実現に貢献する基盤となることが期待されています。



ゲノムを解析する次世代シーケンサー

令和3年度 東北大学入学式を挙行

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、昨年度は中止、今年度は4月開催予定で延期となっていた東北大学入学式を、2021年8月9日にカメイアリーナ仙台（仙台市体育館）で挙行了しました。

式は午前と午後の二部に分けられ、第一部は午前9時30分から学部1年生2,448人を対象に、第二部は正午から学部2年生2,438人と大学院進学者2,748人を対象にそれぞれ20分間執り行われました。

感染拡大防止策徹底のため、保護者の皆様には当日の列席に代えて式典の様子を東北大学入学式の特設ウェブサイトにてライブ配信で視聴いただく形態での実施となりました。

開会の辞に続く「総長お祝いの言葉」の中で大野 英男総長は、「皆さんも一人一人、この感染症の拡大防止に注意を払いながら、本学において充実した有意義な学生生活を送ることを期待します。改めて、東北大学は、次世代の有為な人材である皆さんの入学を心よりお祝いたします。皆さんが、本学においてさらに大きく成長されることを期待して、私のお祝いの言葉といたします」と祝辞を贈り、締めくくりました。



祝辞を贈る大野総長と答辞を述べる入学生（写真上第一部、下第二部）



私のMission, Vision, Value

STAFF MESSAGE

経験値を高め、
様々な「つながり」を大切に



総長・プロボスト室(事務) 諏訪 真奈美 SUWA Manami

総長・プロボスト室の仕事は「総長が指示する事項についての企画立案、調整、調査研究等を行うことを任務とする」と規程で定められています。業務は大学評価の担当チームと、大学の企画や経営戦略を担当するチームの2つに分かれていて、私は主に後者の仕事をしています。

日々の業務ですが、いわゆるルーティンワーク的な業務がほとんどありません。常に国の政策や他大学の動きなどをキャッチし、東北大学の課題や進むべき方向などに関わることを考え行動することが求められます。

2018年の配属後、私が担当した主な業務としては、「東北大学ビジョン2030」の策定や関連するワーキング・グループの運営、災害復興新生研究機構の東日本大震災後の10年間の活動をまとめた『東北大学復興アクション第9版』の編集と関連シンポジウムの開催などがあります。

そして今年4月、東北大学の原点でもある「社会との共創」の中で復興の先の持続可能な未来の実現を目指す「東北大学グリーン未来創造機構」が設置され、私も担当の一人としてこの業務に関わっています。



震災後10年間の活動を編集した『東北大学復興アクション2011-2021「東北復興・日本新生の先導を目指して」第9版』(2021年3月発行)

総長・プロボスト室の仕事は、真剣に考えたことが実現していくことにやりがいがあります。幅広い知識を総動員し、学内の各部署の人たちと連携しなければならぬことも多いので、自分自身の経験値を高め、様々な「つながり」を大切にしていきたいと思っています。

EDUCATION
RESEARCH
CO-CREATION

新たに本学の8つの建造物が 登録有形文化財に

2021年10月、文部科学省告示第175号により東北大学正門など以下の8つの本学建造物が、登録有形文化財として新たに登録されました。

- ①旧東北帝国大学理学部生物学教室 [A19]
- ②旧東北帝国大学法文学部第二研究室 [D03]
- ③旧東北帝国大学工学部機械学及び電気学教室 [F01]
- ④旧東北帝国大学工学部機械学及び電気学実験室 [F02]
- ⑤旧仙台高等工業学校建築学科棟 [G14]
- ⑥本多記念館 [A02]
- ⑦旧制第二高等学校正門 [Z07]
- ⑧旧東北帝国大学正門(東北大学正門) [Z13]

今後、東北大学ではこれらの歴史的財産を大学だけでなく、市民と共有する文化的資産として、適切な保存と活用を行うとともに、周辺の環境と調和したキャンパス景観の維持管理に取り組み、後世に引き継いでいきたいと考えています。



旧東北帝国大学正門(東北大学正門)

マップは下記URLか右のQRコードから。カテゴリ「登録有形文化財」のプルダウンメニューでご確認いただけます。
https://www.tohoku.ac.jp/map/ja/?f=KH_Z13



「大野 英男総長と語る東北大 Vision 2030」を開催しました。

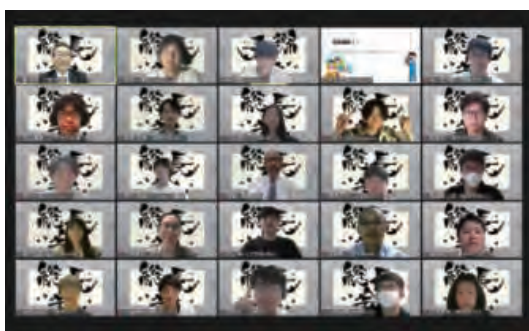
学生と大学とのコミュニケーションを促進 ● 学生ピアサポーター承認団体
Pompadour代表・経済学部経済学科3年 堀内 一樹 HORUCHI Kazuki

2021年7月2日、オンラインの対話イベント「大野 英男総長と語る東北大 Vision 2030」を開催。42人の学生が参加し、総長との直接対話による交流を図りました。

私たち Pompadour は、「自ら考え実装する」をモットーに活動している学生団体です。授業スタイルがオンラインに移行している今だからこそ、「大学と学生が対話できる場所を作ろう」と着想し、今回のデイスカッションイベントの開催に至りました。

7月2日午後6時から「大野 英男総長と語る東北大 Vision 2030」と題し、42人もの学生が参加して行われました。最初に「東北大を今後どのような大学にしていきたいか」などといったテーマについて総長からスピーチがあり、その後、総長と学生によるデイスカッションが行われました。総長への質問コーナーでは、総長と学生の質疑応答が活発に交わされました。

今後とも学生と総長や教授が共に大学の未来を語り合うような取り組みが増えればよいなと思っています。今回のイベントに協力・参加してくださった多くの方々、本当にありがとうございました！



参加者の集合写真



Pompadour活動の様子

変化をチャンスと捉え アフリカ人留学生を支援。

コロナ禍での「新しい常識」へ適応 ● 宮城アフリカ協会(AFAM)副書記・工学研究科環境水理学研究室修士2年 Lawson Stephan Korbla
本学OBのアイザック・ヤウ・アスリードウ会長のもと、AFAMは東北大や東北各地の大学院で学ぶアフリカ人留学生を支援するなど、多様な活動を行っています。

2002年設立の宮城アフリカ協会(AFAM)は、東北大に通う45人の留学生が中心となって活動するほか、東北地方のアフリカ人交流組織としても機能しています。留学生の適応・キャリア支援のみならず、高齢者施設訪問や、講演会と文化交流を組み合わせた「アフリカ文化セミナー」の開催など地域社会にも貢献しています。

新型コロナウイルス感染拡大後は、卒業生や専門家を招いたウェビナーやオンライン料理教室を企画するなど、支援や交流が続いています。また、コロナ禍で就職が困難な卒業生のため、在日大使館に各国の企業への働きかけを依頼するなどの支援も行っています。アルバイトの機会が減り、研究や就職活動がうまく進まず、精神的、経済的に追い詰められているアフリカ人留学生は少なくありません。

ニューノーマルでの変化をチャンスと捉え、新しい活動のあり方を模索しています。



文化パフォーマンス(2018年9月撮影)



AFAM副書記のLawson Stephan Korblaさん

宮城アフリカ協会

<https://afam-org.com>

想いをつなぐ

東北大学校友会

東北大学基金

心をつなぐ

東北大学校友会

つながるチカラを、もっと、ずっと。



東北大学校友会は、卒業生、在校生、教職員、在校生のご家族など、東北大学の関係者や東北大学を応援してくださる皆さんを会員とし、会員相互の親睦と交流を支援し、世代や地域を超えた「東北大学コミュニティ」の発展を目指す校友会組織です。

「同窓会を開きたい」「同窓生と連絡をとりたい」「大学の活動を知りたい」「大学の施設を利用したい」など気になること、聞きたいことがあったら気軽にいつでも校友会にご相談ください。

母校との絆、仲間たちとの絆で、皆さんの人生が豊かに輝くように。在学中も卒業後も、ずっと皆さんをあたたくサポートしていきたいと考えています。

「校友会の主な活動紹介」

校友会では皆様にお楽しみいただける様々なイベントを開催しております。また、「学生生活をまるっと応援!」をコンセプトに同窓生ネットワークを通じて、学生の衣食住など多面的なサポートをまいります。

- ホームカミングデー
- 各地区での交流会、同窓会
- 東北大学懇談会
- 「100円朝食」サービス等の学生支援



2021年度東北大学懇談会オンライン配信の様子



会員への情報発信

東北大学メールマガジン(月1回配信)、校友会公式SNSで最新情報やイベント情報を配信しています。ぜひご登録ください。



配信申し込み



お友だち登録



フォロー



チャンネル登録



東北大学校友会

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 TEL:022-217-5059 FAX:022-217-5910
Eメール: alumni@grp.tohoku.ac.jp https://shuyukai-tohoku-u.net

東北大学校友会

検索



東北大学基金

ともに挑み、ともに育む
未来のために

2008年に創設された東北大学基金は、皆様からのご寄附を本学の様々な活動に活かしています。

頂いたご支援は、東北大学が世界的に卓越した研究成果を生み出し、そして東北大学の学生たちが世界を先導する力を身に付けていくための大きな原動力です。

本学の「教育」「研究」「社会との共創」の成果を通じて、より豊かな未来社会を皆様と一緒に実現していくため、ぜひご理解とご支援をお願いいたします。

—— 東北大学基金の主な取組み ——

—— あなたの寄附でできること ——

ありがとうの
気持ちを込めて

基盤を
つくる

教育・研究の
共通基盤をつくる
(一般基金)

課題に
挑む

特定のプロジェクト
への支援
(特定基金)

想いをつなぐ

寄附したい方の
想いを形にする
(遺贈・寄附サポート)

修学支援

奨学金により
学生の修学を
サポート

研究支援

研究資金や
設備環境の充実を
サポート

人材育成

留学や課外活動
支援によりリーダー
人材育成をサポート

社会貢献

地域連携イベントや
社会教育事業を
サポート



ご寄附の御礼に、ご希望の方には東北大学オリジナル返礼品をご用意しております。



東北大学基金

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1 TEL:022-217-5058・5905 FAX:022-217-4818
Eメール: kikin@grp.tohoku.ac.jp http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/

東北大学基金

検索



東北大学学友会

▶ 東北大学学友会とは

東北大学学友会は、学生の皆さんが大学の学問以外に、文化、体育などに関する自発的な活動を行うための全学的な組織であり、今年で100周年を迎えました。

本学は、社会性、自主性、協調性、リーダーシップの育成及び心身の健康と増進につながるとして、課外活動(学友会)への参加を奨励しており、学生の皆さんが積極的に学友会の行事や各自好きなサークル活動に参加し、楽しみつつ、豊かな教養を身につけていくことを期待しています。現在、

所属する185団体に延べ8,000名の学生の皆さんが加入し、様々な分野・競技大会等で成果を達成しております。

学友会は、本学の学生及び教職員全員で組織されており、会員の支援により運営をしております。主な事業は新入生歓迎会や大学祭等の行事支援、課外活動の援助、レクリエーション時のスポーツ用具貸出を行っております。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動内容が一部制限されていますが、各学友会所属団体は、その競技等にに応じた感染防止対策を策定し、活動を行っております。



感染対策を行いながら演奏する吹奏楽部

▶ 主な年間行事

年間行事としては、「新入生歓迎会」「大学祭」「海上運動会」「Spring Festival」の学内行事、「全国七大学総合体育大会」や「東北地区大学体育大会」の他大学を交えた行事があります。

特に「全国七大学総合体育大会」は、1962年から北海道大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、本学の7つの大学間で開催されている歴史のある体育大会であり、本学は第58回大会(2019年度)で3連覇し、史上最多の15回目の総合優勝を果たしております。
※第59回と第60回全国七大学総合体育大会は中止



全国七大学総合体育大会表彰式

▶ 対面新歓イベント「Spring Festival」の開催

2021年6月5日～6日に川内北キャンパスを会場として、対面新歓イベント「Spring Festival」が開催され、2日間で約300人の新入生が参加しました。

本イベントの開催にあたっては、学友会文化部常任委員会、学友会体育部常任委員会、学生団体「Ryuz」、学友会所属団体が協力し、新型コロナウイルス感染症対策とイベント開催の両立を検討した準備を行いました。

各学友会所属団体によるパフォーマンスの披露や体験型ブース、スポーツ大会等の様々な企画が行われ、参加した新入生からは、同級生や先輩と直接交流できた他、実際に体を動かしたり、多様な活動に参加できて楽しかったという声があり、新入生同士や先輩との間で交流が深まりました。



Spring Festival 体育の日



Spring Festival 文化の日

この『まなびの杜』は、インターネットでもご覧になれます。

まなびの杜

検索

●『まなびの杜』をご希望の方は各キャンパス(片平、川内、青葉山、星陵)の警務員室、附属図書館、総合学術博物館、植物園、病院の待合室などで手に入れることができますので、ご利用ください。

●本書の内容の一部または全部の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)は、法律で定められた場合を除き、著作権および出版権の侵害になりますので、その場合はあらかじめ発行者宛に許諾を求めてください。

●『まなびの杜』編集委員会委員(五十音順)
伊藤 彰則/大隅 典子(委員長)/加藤 諭/佐倉 由泰/
田邊 いづみ/溝部 鈴/村松 淳司/渡辺 政隆

●『まなびの杜』に対するご意見などは、手紙、ファクシミリ、電子メールでお寄せください。
〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1
TEL: 022-217-4977 FAX: 022-217-4818
Eメール: koho@grp.tohoku.ac.jp

表紙
について

本学の「共創」の歴史と未来をイメージし、青葉山新キャンパス上空から仙台市街地の夜景を望む写真に登録有形文化財として新たに登録された8つの建造物の写真を古い順に配置してデザインしたものです。



- 1 旧制第二高等学校正門
- 2 旧東北帝国大学理学部生物学教室
- 3 旧東北帝国大学正門(東北大学正門)
- 4 旧東北帝国大学法文学部第二研究室
- 5 旧東北帝国大学工学部機械学及電気学実験室
- 6 旧東北帝国大学工学部機械学及電気学教室
- 7 旧仙台高等工業学校建築学科棟
- 8 本多記念館

編集
後記

今回の『まなびの杜』は「共創」をテーマとして企画いたしました。大学に求められる役割が日々変わっていく中で、もともとの大学の両輪であった人材の育成と高度な学術研究に加えて、社会と共に価値を創造していくことが強く求められてきています。「社会との共創」は東北大学ビジョンの4つの柱の一つでもあります。今回の特集では、社会の強い要請であるグリーン社会の実現に向けた取り組みを中心に、東北大学の研究を社会に役立てるための様々な取り組みについてご紹介いたしました。また、今回からの新しい企画として、本学職員の活躍を紹介する「私のMission, Vision, Value」が始まりました。ますます社会との結びつきを強めていく東北大学の今後の活動にご注目ください。(伊藤)

Check! 東北大学公式HP、SNSにて最新ニュースを配信中!

東北大学では、日本語版・英語版の公式HPとSNS(Twitter, Facebook, Instagram, YouTube公式チャンネル)を運営しており、様々な最新情報を発信しています。



まなびの杜 MANABI NO MORI
VOL.90

2021年11月1日発行 編集：東北大学「まなびの杜」編集委員会 発行者：東北大学総務企画部広報室
〒980-8557 宮城県仙台市青葉区片平2丁目1-1 電話 022-217-4977 FAX 022-217-4818
<https://www.tohoku.ac.jp/> © TOHOKU UNIVERSITY 2021 Printed in Japan



東北大学